

日本鉄道保存協会総会 開催される



9月3日(日)小松児童会館で開かれた総会

次の運転日は10月7日です

トラストレイン参加者からのひとこと

初めてトラストレインの活動に参加しました。作業を通して大切な事だと思いました。(馬野原さん)
楽しい一日でした。カマを久しぶりにさわれ満足です。(佐々木さん)

蒲郡で車両の静態保存を考えているのですが、こちらは若い方がみえ、活気があります。(山口さん)
熱かったのですが、いい経験でした。一人一人が集まってコツコツやるのがいいことだと思います。

(田中浩史さんの妹さん)

8月26日の運行状況

ボランティア 25名
(初参加4名 会員外3名)
乗客数

下り 165名

上り 106名

テレカ売り上げ 17枚

9月9日の運行状況

ボランティア 26名
(初参加0名 会員外3名)
乗客数

下り 146名

上り 58名

テレカ売り上げ 33枚

平成7年度鉄道保存協会総会レポート

結成5年目を迎えた鉄道保存協会の総会が、9月3、4日に石川県小松市において開催された。ご承知のように同協会は、歴史的鉄道車両を産業文化財として動態保存する、国内各地の団体相互の親交を

鉄道の車両（DLと客車、およびキハ1号ディーゼルカー）に1往復乗車。その後館内においてプログラムに従って議事が進行した。意見交換会では、大井川鉄道より参加の白井氏ほかにより「保存技術の伝承に

た。そして夜には、当日の宿舎となった粟津温泉に会場を移して懇親会が行われ、遠路遙々日本各地から参加した会員相互の親睦がはかられた。

翌4日は、昭和52年に廃止となった日本最後の営業用非電化軽便鉄道、尾小屋鉄道の面影をたどる見学会を実施。旧観音下駅のホーム跡や、今にも崩れそうな木橋を車窓より眺めながら、かつての鉄道の終着駅、尾小屋駅跡へとむかった。今回は「尾小屋鉄道を守る会」と、東大鉄研OBによる保存会「赤門軽便鉄道保存会」の協力により、現地で動態保存されている2両のディーゼルカー（キハ2、3号）の展示運転も行われ、僅か30分と短い滞在時間であったものの、普段は滅多に外に出ることのない2両の車両が集う、非常に印象深い運転見学会であった。



深めるため、1991年4月に設立されたもので、加盟団体は初年度の14団体から順調に増え続け、今回新たに真岡鉄道とカヤ興産(旧加悦鉄道)が参加したことにより、計19団体で構成されている。

今回のプログラムは、3日に小松児童会館で執り行われた議事・審議及び意見交換会と、4日の見学会の2部で構成されていた。初日は午後

に現地集合後、児童会館にて動態保存されている旧尾小屋





程の仮設線にて運転された。ドラフトやコンプレッサーの音もリアルな 381 mm ゲージのSLは、さすがに迫力満点で、参加者の注目を一身に集めていた。この日本最新形SLの今後の動向が楽しみである。

天候にも恵まれた見学会は以上をもって終了し、午後3時、小松駅にて再会を期して解散となった。来年は東京からもほど近い、B6形SLを動態保存する日本工業大学にて開催が予定されているので、より多くの鉄道サークル会員の方々の参加を期待したい。なお最後になりましたが、今回お世話になりました関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

白川 淳

参加者はこのあと、付近に開設された尾小屋鉱山資料館と坑道を見学し、一路金沢へと足を進めた。目的地は金沢工業高等専門学校。最近、静岡県の虹の郷で行われた試運転



の様子が、大手新聞全国版に掲載されたため、既にご存じの方も多いこととは思うが、同校の教諭であり、また「尾小屋鉄道を守る会」の会長でもある村田氏が、11年の歳月をかけて完成させた、1/3サイズのC11 328号機SLが当地に保存されているのである。同氏のご好意で、普段は構内に保管されているSLに当日は火が入れられ、5インチゲージのライブ・スチーム2両（C57 1、C62 2号）とともに延長100m



和田山機関庫と舞鶴煉瓦建物見学会報告

7月23日に行なった見学会では、京都・新大阪・大阪と停車してゆく車中に集合した。参加者は13名。おなじみの顔ぶれの他に、今回新しく参加された方や、関東の茅ヶ崎からわざわざ参加された谷口さんの姿もあり、まずは賑やかな顔ぶれが集まった。

姫路までの新快速が、途中で踏切事故で10分遅れ、さらに播但線に乗り換えると、梅雨末期の雨が車窓を叩くなど、幹事にとっては気のもめるスタートであった。それでも急がない青春18切符の旅とて、全員それぞれに集まって、賑やかな談笑や情報交換に興じている。

最初の見学地は和田山機関庫、明治45年に造られた煉瓦造二線の機関庫で、もうレールは外されて何にも使っていない様子であった。入口の石

造アーチもそのまま、少し装飾性が出てきた時代の煉瓦建物である。筆者が数年前に訪れた時には、まだレールが敷かれた状態だったので、この機関庫も前途が危ぶまれる。

ともかく“ああ無事で良かった”と安心して、ふたたび車中の人となった一行。福知山で昼食をしている内に、雨模様だった空は急速に晴れて、まばゆい夏の空になった。丁度この日この時刻に梅雨が明けたいらしい。

東舞鶴で下車。舞鶴軍港まで行っていた支線の跡が遊歩道になっていて、途中に北吸トンネルがある（明治37年）。トンネルを抜けると旧海軍時代の煉瓦建物群が、まばゆい夏の日差しを受けて赤く輝いている。もう使われていない建物だが、装飾されたアーチ窓など、赤煉瓦のボリューム

に圧倒されるような気持ちになる。

入館前に記念撮影をして「赤れんが博物館」に入館。それぞれに煉瓦を鑑賞して一時間を過ごす。この建物は海軍魚雷庫（明治36年）であって、舞鶴でも最も古い施設で、煉瓦はフランス積みである。博物館を出ると、からりと晴れた空の美しいこと、午前中の雨模様がうそのような真夏の青空である。

東舞鶴からの帰途は綾部・園部で乗換えて京都に戻る。夏休み最初の日曜とあって、デッキまで超満員の特急列車が先行して行ったが、こちらは急がぬ旅の普通列車。ゆったりした気分で京都迄帰着した。“さようなら”と解散をして、煉瓦漬けであった一日を振り返って満足した。

網谷りょういち



サンフランシスコ ケーブルカー試乗記

渡辺一男

日本で初めて汽車が走った翌年、1873年にサンフランシスコのケーブルカーは誕生した。それが基本的な構造は全く変わらず運転の仕方、ケーブルカーの止め方も昔のままに今も元気に騒々しく走り回っている。動力は一本のワイヤーロープだけ。ケーブルカーバーンと呼ばれる博物館を兼ねたレンガ造りの古い建物のなかに動力室がある。昔は蒸気力で動かしていたそうだがさすがに現在では電力に変えられている。しかしその名残りが大きなレンガ造りの煙突に偲ばれる。また実際にこの目で大きな滑車がくるくる回りワイヤーロープが次々と繰り出されて行くのを

見ることもできる。ちなみにこのケーブルカーを発明した人は、ドイツの技術者でワイヤーケーブルを主に製造する企業の社長でアンドルー・スミス・ホリディという人である。さぞかし自社製品の宣伝にもなったことだろう。

さてここで実際にケーブルカーに乗ってみよう。始発駅に新しく設置した自動券売機で1\$なりの券を買おうとしたところ、おじさんがつかつかと歩みより「日本から来たのか」と声をかけられた。「そうだ」と答えると「そんなマシーンで買ってもつまらない、車掌から買いなさい」と言われ、とりあえずそそくさと乗り込む。オープンデッキの外

側に向けて設置してある木造りのロングシート部分の一番前よりに陣取る。他の人達もどやどやと乗り込みすぐに満杯となる。「チンチン」とベルが鳴り意外にもスムーズに走り始める。運転の仕方はグリップと呼ばれるレバーを前へ倒したり手前に引いたりして二本のレールの間の溝の中を動いているロープに対し

万力みたいにグリップを羽交いじめにしてロープとともに動くのである。したがって時速はロープと同じ九マイル(約14.4km)である。スムーズに発進できるのは、このロープにたっぷりタールが塗ってあるからだ。ケーブルカー路線と交差する道がある所すべてが停留所になっている。乗降客があると車掌が「チン」と一回ベルを鳴らす。次の駅で止まれという合図である。発車オーライの時は「チンチン」と二回鳴らす。グリップマン(運転手)はほとんど絶えずしてベルを鳴らし続ける。危険防止のため「そこのけそこのけケーブルカー様のお通りだ。」と言った所か。このグリップマンの鳴らすベルが実に騒々しくも軽快なのである。「チンチチンチン・チーンチーン。チチチチチーン。」グリップマン一人一人が工夫を凝らしサンフランシスコのダウンタウンに音楽を奏でる。毎年一回グリップマンによるベル鳴らし競技会も開かれる。さていよいよ急坂のお出ましだ。車掌が叫ぶ「ホールドタイト！」急坂と言ってもわれわれがもつ街中にある坂のイメージとは全く違うのである。とにかくすごい坂だ。ゴアー！という感じで登り始める。頂上まで登りつめるとすかさず下りにさしかかる。これがまた凄い！思わずバーを握る手に力が入る。みな





「ワーオ」と一同に叫ぶ。一気にかけ下る。そしてまた登る。カーブに差し掛かる。車掌が叫ぶ「コーナーハングオン！」この曲がり方がまたまた凄いのである。特に直角カーブで上り急勾配、しかもグリップマンが思いきりレバーを引いてガチッとケーブルを挟むとどうなるか。ちなみに帰りのケーブルカーではステップの所にぶら下って来たが、反対側の人々が2人振り落とされた。車掌がグリップマ

ンに言った。「おい、2人落ちたぞ」車掌、グリップマン、乗客みな腹をかかえて笑ったのであった。

さて、終点に着くと、運転のためのグリップレバーが片方にしかないのケーブルカーを回転させなくてはならない。そこで乗客を降ろすとターンテーブルに乗せ、車掌とグリップマンが手でケーブルカーを押し回転させる。そしておしりでケーブルカーを押しターンテーブルからケー

ブルカーを押し出すのである。実にユーモラスでのどかな風景だ。ちなみにポイントもすべて手動である。

このジャジャ馬ケーブルカーも時に機嫌が悪くなるらしい。やはり先程と同じ帰りのケーブルカーでのハブニング。ちょっとした上り坂の所で坂道発進が思うように出来なくなってしまったのである。車掌曰く「親愛なる紳士諸君！願わくは、このケーブルカーを押ししてくれまいか」みなゲラゲラ笑いながらケーブルカーを飛び降り押す。僕も押した。女性連は拍手喝采である。無事坂の上まで登り着いた時の騒ぎと言ったらもうすさまじいものであった。終点に着いた時はもうクタクタ足は痛い、ステップにぶら下がって振り落とされまいと必死にバーを握っていたため、しかも片方の手でバッグを抱えていたため左手一本で、腕の感覚はなくなるはで散々であったが、魔力に取りつかれたようにもう一度乗りたくなってしまふのである。とにかく楽しい。へたなジェットコースターなど問題の数ではない。また人がいいのである。さすがアメリカと言いたい。グリップマンも車掌もそして何よりも乗っているみんなが黒も白も黄色もなく十分にエンジョイしているのである。僕も何度も気楽に声を掛けたりたりした。英語も日本語も中国語もない、共に叫び、感動しスリルを味わい何もかも忘れて一体となって楽しんじゃ



うのである。ただただ感動的である。思えばこのケーブルカーたった一本のロープで凄い急坂を登ったり下ったりしているのである。もし急坂でグリップがロープからはずれたら、もし振り落とされた人が後から走って来た車にひかれたら、ステップにぶら下がっている時にすぐわきをすり抜ける車に引っかけられたら危険が一杯の乗り物なのである。それでもみな喜んで乗り、動かす方も平気な顔して動かしているのである。確かに今までに何度も廃止されそうになったことがあるそうだがその度に日本のローカル線廃止運動など問題にならない程の反対運動が住民から起こったそうである。かと言って地元の人達はケーブルカーに非常に関心を持っているのかというとそうでもなさそうなのである。あいつは観光客のもので俺達には関係ないさ、という顔でいる。かえって車を運転する人達にとっては邪魔者でさえある。あのチ

ンチンと鳴らすベルがどうも気に入らない、騒々し過ぎるという人もいるという。だったら廃止してしまえと考えているかと言えばそうでもない。住民にとって「憎さ余って可愛さ百倍」といったところか。また法的にも“住民の過半数の賛成がなければ、ケーブルカーを廃止できない”との一項が市憲章にあり、しかも1964年には国定史跡の指定も受けているのである。しかも年間400万ドル(約四億円)の赤字にもかかわらず1982年より20ヶ月間、5820万ドル(約150億円)をかけて改修工事を行なったため21世紀になってもまだまだ走り続けられることだろう。市長の英断もさることながら驚くなかれ、我が日本の商社



より66万ドル(約1億6000万円)の寄付があったのだそうだ。

このケーブルカーも保存鉄道的一种であると僕は考えている。市や国・住民、それに何と言っても日本の商社?にまでも暖かく見守られ、生きた保存鉄道として未長く元気に走り続けてもらいたいと願っている。われわれもサンフランシスコのケーブルカーに負けず、みんなで楽しめる、生きた保存鉄道を育てて行こうではありませんか。商社の方々にも、何もアメリカくんだり鉄道の莫大な寄付をしなくとも、日本にもこんなすばらしい保存鉄道があるのだと胸を張って言えるようになりたいものです。それではみなさんSee You Again.

(原稿作成1984年9月)



いんぷおめいしょん

鉄道サークル定例会

のお知らせ

日時：9月18日(月)

19:00 開始

場所：北とびあ 808会議室
(JR王子駅北口・地下鉄南北線
王子駅5番出口 徒歩2分)

関東地区では久々の定例会
を開くことになりました。

普段サークル活動に参加で
きない方も、お気軽にご参加
下さい。

肩の張らない気軽な会合で
すので、初めての方でも心配
せずにおいで下さい。

見学会のお知らせ

「神奈川の“トワイライトゾーン”と“今なお現役”を訪ねる」と題して見学会を行います。

・日時：9月23日(土) 13:00 集合

・集合場所：JR 東神奈川駅京浜東北線横浜方面行きホ - ム
の一番後ろ(東京寄)

・メニュー - :

東神奈川駅付近から埠頭に延びる貨物線と廃線跡を
散策(奥多摩のホキも途中にある模様)

鶴見線営業所(弁天橋区)の見学

大川支線(クモハ12)・南武支線(101系)乗車

・解散：JR 川崎駅 18:00 頃を予定

電車区の見学の都合上定員は20名とさせていただきます。

申込みは財団事務局まで。

この件についての電車区への問い合わせは、業務の妨げと
なりますので決して行なわないで下さい。

「イギリス保存鉄道の旅」 ツアー募集のお知らせ

旅行期間：1995年10月21～29日(8泊9日)

費用：30万円程度

行程(予定)

10月 21(土) 成田発 ロンドン着(ロンドン泊)

22(日) セバーンバレー鉄道(ウェールズ地方泊)

23(月) スノードン登山鉄道・フェスティニオグ鉄道
(ウェールズ地方泊)

24(火) ヨーク国立鉄道博物館(ヨーク泊)

25(水) ロンドン自由行動(ロンドン泊)

26(木) 国立科学博物館・ロンドン交通博物館
(ロンドン泊)

27(金) ロンドン[ユーロスター]
(ドーバー海峡トンネル) パリ(パリ泊)

28(土) パリ発

29(日) 成田着

旅行申し込みは9月20日頃までに、

白川自宅までお願いします。(TEL/FAX:0424-71-3124)

トラストトレイン オリジナルテレカ 完成



ついに皆様の御協力により、
サークル特製のテレカが完成
しました。当面、車内販売のみ
ですが、サークル会員に限り
通信販売も行いますので、ご
希望の方は1,000円を郵便振
替でサークル口座(財団法人日
本ナショナルトラスト鉄道
サークル00140-7-408646)ま
でテレカ希望と明記の上、ご
送金下さい。

日本ナショナルトラスト 鉄道サークル会報 第75号 1995年9月号

〒100 千代田区丸の内2-4-1 丸ビル414区 Phone 03-3214-2631 Fax 03-3214-2633